



地域を育み、大陸をつなぐ

2010～2011年度 国際ロータリーのテーマ  
レイ・クリンギンスミス

RI第2510地区

# 留萌ロータリークラブ 会報

2010 ▶ 2011 WEEKLY REPORT

会長／二ノ宮清信 幹事／森 俊二

留萌ロータリークラブ  
会長テーマ

## みんなで50周年を祝い ロータリーの輪を拡げよう!!

### プログラム

- 本日  
来賓卓話「大型絵本読み聞かせ」  
市立留萌図書館 館長 伊端 隆康様 ほか2名

会員誕生日  
6月1日 澤田 茂  
6月1日 西谷 恭治

- 次週予定  
創立50周年記念式典

配偶者誕生日  
6月3日 佐々木留美子

No. 2465

第42回 6月1日

出席報告

前例会

会員総数.....45名  
出免会員.....9名  
出免出席.....6名  
出席会員.....26名  
出席率.....76.19%

前々会

第39回 5月11日  
欠席会員.....6名  
内メイクアップ.....0名  
修正出席率.....85.37%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

### 📝 会長報告 .....

- 先に当クラブの創立50周年記念式典・懇親会を「東日本大震災」発生によって中止すると決定いただきましたが、式典・懇親会のための積立金1,200,000円を皆様にご承認を頂きましたとおり「国際ロータリー 2510地区・東日本大震災支援プロジェクト」あて5月13日に支援金として送金をいたしました。
- 田中会員が東日本大震災の救援ボランティアとして、5月16日から20日まで岩手県に行かれておりました。大変ご苦労さまでした。  
又、盛岡ロータリークラブの例会にも出席し、盛岡クラブとバナーの交換もしてくれました。ありがとうございました。
- 今週の日曜日(5月29日)に赤平ロータリークラブの創立50周年記念式典に清水会員、田

中会員と共に参加をさせていただきます。

### 🗣️ 幹事報告 .....

- 5月26日午後6時30分より富丸にて、新旧合同理事会を開催いたします。会費は2,000円です。
- 2010～2011年度活動報告書の原稿提出準備を各理事、役員、委員長の皆様お願い致します。

### 👥 委員会報告 .....

50周年記念誌委員会 鈴木委員長  
6月1日(水)午後6時半より、富丸において最終打ち合わせを行います。会費は1,000円です。

### 3分間情報 .....

#### 「四つのテスト」

ロータリーアンの行動の指針として推奨されているもので、「規則」として取り扱ってはならない。公共の人間関係をより高める場合を除いて、販売や利益を増すための広告に利用してはならない。

四つのテスト、言動はこれに照らしてから

- ①真実かどうか
- ②みんなに公平か
- ③好意と友情を深めるか
- ④みんなのためになるかどうか

1932年ハーバート・テラーが、倒産寸前の会社を救済する方法として創案したもので、1943年1月R I 理事会はロータリーに採用を決定しました。

ロータリークラブの指針となる原則は、善良な成人であって、職業上良い世評を受けている者によって構成される。および「四つのテスト」である、とされている。

#### 【ミニ情報】

##### 「スマートフォン」

スマートフォンは、基本ソフトから末端までアップル社1社が開発するアイフォーンなどの機種種のOSで「i OS」系と、グーグルの開発したOSを搭載し末端を多数のメーカーが開発する「アンドロイド」系の競合になっています。

i OS機は、パソコン用サイトによく使われるフラッシュに非対応で、一部のページが表示できません。

製品のバリエーションが豊富で選択肢が多いのは、多くのメーカーが独自に機器を開発するアンドロイド機で、末端に機能を追加するアプリはインターネット経由でダウンロードしてインストールします。自由度が高い一方、不正なアプリをインストールしてしまう危険があります。i OSではアプリ配信サービスをアップルのみが運営し、一般ユーザーは他の方法でアプリを追加できませんが、アップルが審査しておりウイルスなどの不正ソフトが入る心配があり

ません。i OSはiTunesを使い、端末のバックアップをパソコンに保存できます。アンドロイドは、端末全体のバックアップを取る標準的手段がなく、マイクロSDカードなどに、決まったデータのみバックアップする機種が主流です。

また、電話回線経由でしか利用できない従来の携帯電話向けの専用サービスは、大幅に作り替えない限り、スマートフォンでは利用できません。

### ニコニコBOX .....

・2520地区で、創立72年の盛岡RCの例会に出席してきました 田中会員

|     |          |
|-----|----------|
| 前 回 | 670,500円 |
| 今 回 | 10,000円  |
| 累 計 | 680,500円 |

### プログラム .....

#### 「我が生い立ち」

阿部 洋一 会員

制限時間がありますので、前半はかなり端折ったかたちでさせていただきます。

1966年、阿部砂利創業者芳太郎の孫として留萌の瀬越町に生まれ、ただいま44歳独身でございます。



1971年4月 聖園幼稚園に入園

1973年4月 留萌小学校に入学

1979年4月 港南中学校に入学

部活は特に入っておらず帰宅部でした。とはいえ、特に勉強の虫だったわけでもなく、当時の子供らしく野山を駆け回っておりました。

1982年4月、函館ラサール高校に入学。函館出身以外の生徒は寮に入る決まりがあつて寮生活をしながら、硬式野球部に所属していました。早い時期に家族と離れて規律の厳しい環境で生

活することで、社交性を身に付けることができましたと思っております。1年浪人ののち、1986年4月小樽商科大学に入学。無事4年で卒業をし、1990年4月当時の松下電器産業（現在のパナソニック）に入社しました。一昨年の6月に退社するまで19年2ヶ月、主に営業の仕事をしておりました。

2010年6月阿部砂利に入社して、叔父であります前社長の逝去に伴って2010年9月より会社の代表として、悩み多い会社経営を行っております。会社生活を通して、会社やお客様に学んだことが多く、今の人格、考え方に影響を与えている部分が多いので、営業として活動していた当時、主に扱っていた商材の紹介とともに、生い立ちの紹介をさせていただきます。

パナソニック退職の折、社員の立場でしか知ることができないような情報について秘密保持契約を結んでおりますので、詳細にお話することはできませんが、私自身の基準で差し支えない部分でお話させていただきますので、一部インシヤルトークになってしまうことをご了承いただきたいと思います。

## 【空調設備】

入社から9年間は、札幌・静岡・東京にて空調設備を扱っておりました。北海道では新千歳空港、夕張パイナバレー、サッポロファクトリーと、バブルの余韻を残している建物を中心に、空調機・換気送風機を販売しておりました。

設計事務所への設計協力や建築現場との納入打合せと、非常に幅広い知識と経験が必要とされる為、新人当初は厳しいことも多く言われたり、必要以上の資料作成をさせられたり自分にとっては厳しい時代でしたが、のちの営業活動に生きる自信と経験を重ねることができました。

静岡でも空調機器を扱っておりました。余談ですが今騒がれている震災に関して建築現場はもとより、事務所内にある会議室でさえ、ほとんどの所に常にお客様用のヘルメットが部屋の定員分用意されていました。中部地方の大震災に対する意識の高さを感じました。

続いて東京では、東京ディズニーシーと舞浜駅の空調設備の納入打合せを行う為、東京ディ

ズニーシー敷地内に駐在して、日々業者との仕様打合せを行っておりました。敷地内に張りぼての山が転がっていたりするなか、点在しているプレハブの建築事務所をスクーターで巡回して打合せを行っておりました。アトラクション内で送風機を二つ合わせて竜巻を起こす機械を業者との協議で設計したりと、面白い仕事もさせていただきました。

空調機の後には、主に事務用機器の商品を販売しており、主な仕事の内容は自社の商品を取り扱っていただく商社、当時はパートナー会社と言っておりましたが、それを開発するというのが大きな役割となりました。扱った商品を紹介したいと思います。

## 【ノートパソコン】

Let's Noteというノートパソコンの販売を行いました。知っている方がどれほどいるかはわかりませんが、当時はシェアが驚くほど低い商品でした。

主な仕事は、シェアの低いそのパソコンを商社が販売する商品陣容に組み入れていただくよう売り込むのが中心でした。

## 【分煙機】

空港に置いてあるような煙を吸い込むカウンターです。オフィスの禁煙、分煙が真剣に考えられる時流があり、それに乗って大手のプリンターやデジカメで有名なC販売のカタログに載せていただくことを実現いたしました。

## 【電子黒板】

白板に書いたものをボタン一つで紙に印刷する商品ですが、どこかで見たことはあると思います。この商売で私は机とか椅子で有名な大手文具メーカーI社と共同推進しておりました。今でも分厚い文具カタログにはパナソニック製の電子黒板が載っているかと思えます。

## 【RFID】

ここからは、少しお聞き馴染みのない商品になります。RFIDは、タグを利用したソリューションの紹介をしておりました。流通業界では今バーコードがメインで商品管理がされていますが、タグはバーコードより早く、大量に、しかも遠く離れたところからタグの情報を読み

取れる技術として業界から期待されながら、正確性・コスト・安全性等の面で問題があり、なかなか採用するところが増えていないのが当時の状況でした。今後成長が見込まれている分野ですが、未成熟の分野であったため特定の顧客、提案内容がない状況で一から探りながらの推進という、自分にとっては新しい取組であったため、苦労しながらの営業でした。しかしながら、人から与えられた環境、手法ではなく自分主導で環境を作っていく楽しみを実感することができ、非常に楽しみながら仕事をすることができました。

### 【リライトカードリーダーダライタ】

ポイントカード、会員証でカードを通すと書かれている内容が消え、違う内容が書き込まれるようなカードを見たことがあるかと思いますが、そのプリンターの販売を行っておりました。

私自身が受注販売したのものには、献血をよくする方で、5・6年前から献血カードが手書+ゴム印から印字に替っているのに気づいている方がいるかと思いますが、献血カードのプリンター。あとは最大手ドーナツ会社Mr某のポイントカードがあります。この留萌に住んでいても自分の仕事の成果を見ることができるのは、とても感慨深いものがあります。ドーナツ会社は今留萌にはないですけど…。

最後に扱っていた商品は【CAT端末】クレジットカードを読み取る機械です。これは犯罪防止のため、多くの秘密を持った機械なので、敢えて詳細な話は避けたいと思います。ただ、防犯の目的で何重にもセキュリティがかけられていることは確かなことなので、仕事で使用する方、またクレジットカードをよく利用される方におきましては、自分に邪な考えがなくとも、変な触り方をするとすぐに怪しまれます。

また場合によっては、カード会社の情報センターに設置されている警報ランプを直接回してしまうこともあり得るため、くれぐれも気を付けてください。

以上走りましたが、皆様になじみの少ない商品が多くわかりにくい話だったと思いますが、営業という職制上商品については詳しく勉強さ

せていただいております。

本日紹介した商品のなかに、皆様の仕事、私生活のなかで必要があり、詳しいことを知りたいというようなことがありましたら、特に私個人としては得なことはないんですが、お声かけいただきたいと思います。

堀 光輝 会員

私は昭和44年7月17日に父、實と母、恵子の二男として稚内市にて生まれました。

父は最初、富良野にて母と私の兄、姉の4人で生活をしておりました。私が生まれる2〜3年前に当時、酪農をしていた祖父が離農するなら私の父が後継者としてやる、ということになり稚内に戻ってきたそうです。私には弟が一人いるのですが、酪農をするなら子供をもう少し儲けようかとなったみたいで、そのまま富良野にいたら生活が大変だったらしく、私と弟は生まれなかったという話を聞かされて、両親が稚内に戻ってきてくれてよかったと思いました。また私の出産予定日である7月9日には、私の誕生を誰よりも楽しみにしていた曾祖母が亡くなり、葬儀が終了して一段落したところで私が生まれてきたなど、少し不思議なことがあったようです。

三世代8人の家族で過ごし、小中学校は酪農地帯の小さな学校に通いました。過疎化の波には勝てず、学校は私が最後の卒業生で廃校になってしまい、少し寂しい思い出があります。昭和60年に稚内高校に入学し、部活は硬式テニス部に所属しました。毎日楽しい高校生活を送り、入学後の最初のテストは良かったのですが、その後はあまりにも遊びすぎてしまいそのツケがきたのか、成績は急な坂道を転げ落ちる石のように落ちてしまい、テストは赤点の嵐、単位を取るために再テストを受けたり夏休み、冬休みに一週間ほど学校に通ったりなんかもして、親には少し心配をかけました。

そんな自分も卒業後の進路を決める時にはほど



うしようかと思いましたが、元々勉強が好きではなかったので大学はさっさとあきらめて、その当時、わたしは何故か歯医者が好きだったので、「歯科技工士にでもなろうかな」と思い専門学校に行こうか悩んだあげく、専門学校でもやっぱり勉強はあると認識して、就職することに決めました。民間会社を4社程受け、毎回ことごとく打ち砕かれ、公務員関係の試験も道職、郵便局、それに受験した特典に交通費と無料の昼食付き、おまけにヘリコプターに乗せてくれると聞いて自衛隊の3種類を受け、合格したのが自衛隊と何故か郵便局でした。郵便局に合格するとは少しも思っていませんでしたので、自衛隊は丁重にお断りをして、郵便局に就職を決め、どこの郵便局に採用されるか楽しみにしていました。採用の連絡が随分こないなあと思っていたら、親に「あんたが出かけてるときに北海道郵政局というところから電話があって、採用場所の知らせがあったから、そこでいいですよといったから」とそっけなく言われ、昭和63年4月11日から社会人として歩むことになったのが、遠別町内にある丸松郵便局という小さな郵便局でした。当時の郵便局の採用は1年間の採用の有効期間なるものがあるはずで4月1日というわけでもなく、なかには約1年ほどたった2月に採用されるという人もおりました。

郵便局に就職したのだから勉強はもうしなくてよくなったなあと思いましたが、これが意外なことに、皆さん方も経験されてご存知かと思いますが、様々な資格を取得するためには勉強することがあって、ちょっとショックをうけました。人間いつまでも勉強があることを知り、また社会には学校の勉強よりもっと難しい社会勉強というのがあり、こっちの方が厳しいんだということも学びました。

その社会勉強の一助として役立ったのが、地元の青年団への加入でした。職場の先輩が町の青年団に加入していた関係で、私も誘われて加入いたしました。その青年団は町の活性化のために様々な活動をしており、行事に参加していくうちに地域にも段々と慣れることができました。いつの間にか会を束ねる会長まで務めるこ

とになったりして、横のつながりが非常に深くなり本当に加入してよかったなあと思いました。

そんな楽しい毎日をご過ごしている時、出会いはある日突然あるもので、今の妻と知り合い、初デートは留萌まで映画を見に来たことを覚えております。その後順調に交際を続け、22歳という若さで結婚することになりました。ここでまた不思議な事がまたひとつ。結婚が決まってから私の祖父が亡くなったのですが、初七日を過ぎたころに長男の妊娠が発覚して、親戚にはよく祖父の生まれ変わりだと言われました。私も曾祖母の生まれ変わりのようにこの世に生を受け、少しタイミングは違いますが長男もこのような境遇のもとに生まれ、つながる命の不思議さというのを感じました。また祖父は92歳で亡くなったのですが、入院していた病院にその日なんとなくお見舞いに行き、夜に稚内から遠別までの海岸線を走っていたとき、突然メーターやエアコンなどの室内表示灯が全部消えました。でもなぜかヘッドライトだけは点灯しておりました。いったん停車をして車外に出て運転席に戻ると不思議な事に直っていました。でも何か胸騒ぎがしたので、当時は携帯電話などありませんでしたので、途中の公衆電話から実家に電話をすると祖父が亡くなったと聞かされました。室内灯が消えたのは祖父の私への最後のメッセージだったのかもしれませんが。この不思議なメッセージは私の弟にもあったらしく、当時札幌でほとんど音信不通だった弟が突然稚内に帰ってきました。

社会人としてようやく一人前となった5年目の秋に、当時勤めていた丸松郵便局の局長が郵便局で、くも膜下出血で倒れるというショッキングな出来事があり、翌年6月には廃局となってしまいました。郵便局がなくなるということはそこに勤めた人には非常に寂しい思いがあります。それこそ母校をなくすような思いです。先ほどふれたように私の出身校は廃校になりました。記憶の中に閉校式典の素晴らしさが残っていたので、みんなの記憶に残るような事がたくて、最後の職員として出来ることはないか考え、丸松郵便局で仕事をしたすべての人を郵

## 第41回 5月25日(水) 天候/晴

便局に集めて記念写真を撮り「出身者の集い」をしようと企画し、郵便局の歴史を探ってしおりの作成など、大変な作業もありましたが皆さんに喜んでいただき、開催して本当によかったですなあと思いました。

この廃局と当時に実は留萌への転勤の話もあったのですが、結婚してまだ経済力もそれほど高くなく、なにせ妻の方が給料が高いのに留萌に行って自分ひとりの収入でやっていく自信がなかったので、そのまま町内の遠別郵便局に異動をし、その後天塩・古丹別・幌延・また天塩と天塩川に遡上するアキアジのように2度の天塩郵便局勤務をへて、平成19年4月に幌延町の問寒別郵便局に局長として37歳の時に赴任いたしました。子供たちにはそれまで4回の転校をさせ、せっかく慣れたところに私の転勤が決まって、子供たちにその話をするのが本当につらかったです。何度か異動のお別れ時に、沢山の涙を浮かべて必死にこらえている姿をみるとつらいものがありました。子供たちは何言うでもなくついてきてくれ、本当に感謝しています。

局長になった時に真っ先に報告をしたい人がおりましたのでハガキを書きました。その人は私を学生から社会人に育ててくれた、亡くなった丸松郵便局の局長さんです。亡くなった局長の奥さんから返事をいただいたのですが、私のハガキを見て局長になったことを墓前に報告してくれたそうです。こうも教えてくれました。「うちのお父さんがいつも堀さんに厳しくしていたのは知っていました。でも本当は心配でならなかったみたいです。そして堀さんは将来絶対に局長になるだろうと言っていたんですよ」ということを知らされ胸が熱くなりました。今の局長としての自分があるのも、その方の影響が非常に大きいと確信しています。

私が局長として赴任する少し前の平成19年1月29日早朝、問寒別郵便局は漏電が原因の火事で全焼してしまいました。私の前任の局長は退職までもう少しのところ非常に大変な事が起きて、かなりのショックではなかったかと思えます。赴任直後は仮設の郵便局舎での営業と、まだ火災の残務整理があり、普通はあまり経験

できないことを経験させていただきました。また当時は、その年の10月には郵便局が民営化される事が決まっておりましたので、問寒別地区の住民の方はどさくさまぎれに郵便局がなくなるのではないかと心配もされておりました。その後10月に郵政民営化がスタートし、念願の新局舎が12月にオープンと、それまでの自分の人生の中でかなりハードな平成19年でした。

このたび縁あって留萌開運郵便局に参りました。ちなみに局長には3本の大きな柱があります。そのひとつに不転勤制度というのがありましたので、4年間で問寒別郵便局を離れるとは思ってもおりませんでした。またこの4月のスタートは私たち家族にとって、今までの転勤とは違うものとなりました。留萌では今、妻と小学5年生になる息子と家族3人で生活しております。長男はこの春より札幌に進学。転校により過去につらい思いをしたことも沢山あったと思うので次男には自分の意思で、今の高校に残るか留萌に来るか選択をさせました。一度に二人の子供を巣立ちさせたので親の方がちょっと寂しい思いをしております。そんな生活にも最近すこし慣れてきたところです。

今回、このようなすばらしい留萌ロータリークラブに加入させていただき、本当にうれしく思います。また今日の我が生き立ちの発表にあたり、自分の人生を改めて振り返ってみると様々な人に助けていただいたことを再認識しました。このご恩は、直接その方たちにお返しするのが一番いいのかもしれませんが、もう亡くなった方もかなりおりますので、これからはほかの誰かに返していこうと思います。ロータリークラブには異業種の方がたくさんおります。私も郵政事業の代表者として、クラブの発展のために活動させていただきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。